整形外科

診療科の概要

子どもたちの運動器疾患を周産期から成長終了に至るまで、一貫して治療にあたっています。子どもたちの運動器疾患を周産期から成長終了に至るまで、一貫して治療にあたっていることは、他の施設にみられない特記すべき優位性です。特に四肢の先天異常の患者数・手術数は、小児病院の中でも多く、また、手や足の骨を延ばす骨延長術を用いて低身長の治療や脚長差の治療にもあたっています。一方、様々な変形や機能障害を起こしうる小児の骨折、特に難治性の骨折や変形治癒、遷延治癒に対しても積極的に手術を行っています。

主な対象疾患

新生児から成長終了までのすべての整形外科疾患を対象とします。

◎四肢の先天異常
多指症、合指症、裂手、橈側列欠損、腓骨列欠損、脛骨列欠損

◎骨系統疾患
小人症、骨形成不全症、軟骨無形成症、代謝性骨疾患

◎麻痺性疾患
分娩麻痺、腕神経叢麻痺、脳性麻痺、二分脊椎、末梢神経麻痺

◎股関節疾患
先天性股関節脱臼、大腿骨頭すべり症、ペルテス病

◎下肢変形
先天性内反足、外反扁平足、凹足、O脚、X脚

◎外傷、感染症
骨折、骨髄炎、化膿性関節炎、偽関節、外傷後変形

◎脚長差を呈する疾患
外傷後脚短縮、先天性脚短縮、片側肥大症

◎その他
腫瘍(骨腫瘍、軟部腫瘍)、筋性斜頸、側弯症、運動発達遅延

専門外来

小児整形外科では成人の整形外科と異なる多岐にわたる知識と経験が要求されます。特に、手足の先天異常、分娩麻痺、骨延長を専門としています。また、先天性内反足、先天性股関節脱臼、骨系統疾患も専門的に診ています。

診療実績(2023年)

初診患者数は 1,013 名、再診患者数は 8,980 名でした。
手術件数は 313 件でした。

診療科からのお知らせ

救急は、化膿性疾患や骨折などを受けています。
手術中・夜間・休日などでお引き受けできない場合もありますが、まずは、ご連絡ください。

診療局長(兼)主任部長
樋口 周久

部長(兼)
田村 太資

副部長
大槻 大

医長
小林 雅人